

## TOPICS 今号のトピックス

### 放送ライブラリー 来館者 100 万人達成！ 放送ライブラリー開館 10 周年記念イベント開催 BL・クリエイター支援サービスを12月開始 夏休み期間中の「出前授業」などが好評

#### ■ 放送ライブラリー来館者 100 万人達成、開館 10 周年を記念イベントで祝賀！

##### ■ 来館 100 万人達成！



放送ライブラリーの来館者が100万人を達成した。

平成12年10月、横浜市中区の横浜情報文化センター内で本格施設を開設してから、9年11か月(開館日数3,115日)の9月14日の午後、来館者総数100万人を達成した。100万人目の方は、神奈川県横浜市中区在住の竹之内文子さん。100万人達成のセレモニーでは松村常務理事から竹之内さんに記念品の液晶テレビと花束を贈呈、工藤専務理事から「今後も素晴らしい番組を集めて大勢の方に利用してもらえる施設にしていきたい」と挨拶した(写真)。

竹之内さんは、「月に2、3回は利用しています。100万人目になり、本当にびっくりしています。こんなラッキーなことは初めてです。とてもきれいな施設で利用しやすいので、今後も来たいと思います」と笑顔で話した。放送ライブラリーの近くに住んでいることもあり、今回は好きな「世界遺産」関連の番組を視聴しようと来館されたそうだ。

100万人達成の様子は、当日夜のテレビ神奈川のニュース、翌15日の朝刊7紙(朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、神奈川新聞)に掲載された。その後、「民間放送」「新聞協会報」等にも掲載された。

なお、平成3年4月に放送ライブラリー事業を開始し、同年10月から平成12年8月までの暫定施設(横浜館他)での入館者総数は27万9,855人で、これらを合わせると127万9,855人に達する。

##### ■ 開館 10 周年記念イベントを開催

放送ライブラリーは、現在の施設での開館10周年を記念して、同じビル内の新聞博物館と横浜情報文化センターとの共催で、10月9、10日の2日間にわたって記念イベントを開催した。会場は情文ホールで2日間の参加者合計は330人だった。9日には主催者を代表して、放送番組センター村上光一会長と、日本新聞教育文化財団鳥居元吉専務理事が挨拶した。イベントの初日は、シンポジウム『新聞・テレビ報道を考える～水俣病報道を通じて』と題して、熊本放送制作のドキュメンタリー『記者たちの水俣病』の上映後、番組に関わった熊本放送の村上雅通氏と元朝日新聞の西村幹夫氏、熊本朝日新聞の高峰武氏、進行役も兼ねた元TBS報道局の下村健一氏が登壇しトークが展開された。



10月9日開催のシンポジウム

上映番組は、水俣病の初期報道の誤りや首都圏では取り上げられなかった報道の実態などを検証した内容だが、パネリス

トからは、水俣病報道には、ほかの社会問題の報道の現状や課題を考える上でも、共通した問題点が既に内包していた、との指摘があった。また、報道人の使命や抱負などについても意見が述べられた。

2日目は、トークショー『ニュースの裏側～取材記者が見たビッグニュース』をテーマに、「はやぶさ帰還」と「サッカーW杯南アフリカ大会」取材した新聞記者等が現地での取材の苦労や裏話を披露した。

「探査機はやぶさ」について、朝日新聞の東山正宜記者と毎日新聞の永山悦子記者が、一時は地球への帰還も危ぶまれた約7年間のはやぶさの旅の様子を、新聞記事やJAXAの映像を交え解説した。

W杯南ア大会については、読売新聞の大塚貴司記者、日本対パラグアイ戦を実況したTBSテレビの土井敏之アナウンサーと時事通信社の大石剛カメラマンにより、写真や新聞記事をスクリーンで紹介しながら楽しいトークが展開された。

## ■ BL・クリエイター支援サービスを12月開始

放送ライブラリーの公開番組の一部を、放送局員を対象にIP伝送を利用して番組配信する「BL・クリエイター支援サービス」を12月中旬から運用(当初半年間は暫定運用)を開始する。

これは各社の番組制作や企画参考、若手制作者の教育・研修などに利用して頂く目的で専用サイトを設け、NHKと民放各社を中心に、ストリーミング配信により番組視聴を可能にするサービスである。横浜の視聴・情報システムの更新計画の一環として、システムや権利処理方法等の研究・検討を重ねてきたもので、開発メーカーは各社の公募提案により最終的にNECに決まり、10月から開発に入った。

番組配信システムの構築にあたっては、各社から提供された貴重な番組コンテンツのセキュリティ対策を最重要とし、ID/パスワード認証、IPアドレス認証、強固なファイアウォールなどを講じる。

運用当初は、「ドキュメンタリー」と「教育・教養」のテレビ番組およそ500本程度を予定し、暫定運用の利用状況や運用上の要望などを踏まえて本格運用に望む計画である。これまでに全国の放送関係者からは、公開番組を身近で視聴したいとの要望も寄せられており、運用後の多くの利用が期待されている。(運用方法等は、各社に通知予定)

## ■ 夏休み期間中の「出前授業」などが好評



放送ライブラリーでは、放送各社の協力のもと、夏休みの子ども向けイベントを開催した。今年、これまでの「出前授業」と「アナウンサー体験教室」に加え、新たに「日テレ体験教室」や「ラジオ・DJ体験教室」を開催、多くの子どもたちや保護者の参加を得た。

### ① 日テレ体験教室(8月1日 2回)

「日テレ体験教室」は、日本テレビ技術統括局のスタッフが、放送を支える技術面を中心にした出前授業。

日本テレビでは通常は学校単位で行っているが、今回初めて、放送ライブラリーを会場に小学4～6年生の親子(午前、午後の合計参加者164名)向けに、「放送文化基金」の助成事業として開催した。

カメラ、音声、編集の実演や解説のあと、親子で中継車に乗ったり(写真)、重いカメラを担いだり、編集

機の操作など、本物の放送機材に触れる体験をした。参加者からは「ふだん何気なく見ているテレビも、多くの裏方さんの努力があって成り立っているのだと感じた」等の感想が多かった。

### ② ラジオ・DJ体験教室(8月12日 2回)

FMヨコハマの協力を得て開催。午前の小学4～6年生向けの「ラジオ体験教室」(参加者19名)では、貝殻や小豆を使った効果音体験や、曲紹介をするDJ体験のほか、リポーターが携帯電話の回線を使用して放送ライブラリーから生中継の様子を見学した。

午後の中학생向け「DJ体験教室」(参加者14名)には、人気番組「tre-sen(トレセン)」のDJ・光邦さんと制作スタッフが登場。3つのグループに分かれて、スタッフの協力のもと10分間の番組作りに取り組み、トークや音楽などグループごとに個性ある番組を完成させた。

### ③ アナウンサー体験教室

(7月28日、8月3・20日 計4回)

今年で2年目を迎える「アナウンサー体験教室」は、昨年と同様にNHKとフジテレビの協力を得て開催した。小学4～6年生(合計68名)が、アナウンサーの仕事についての話を聞いたあと、発声練習や放送ライブラリー内のニュース・スタジオでキャスター・リポーターを体験した。参加した子ども達からは、体験の様子を収録したビデオを見ながら、アナウンサー達から講評・コメントをもらえたことが嬉しかった、との感想が寄せられた。

「ラジオ・DJ体験教室」と「アナウンサー体験教室」は、「子どもゆめ基金」の助成事業として実施された。

## ■ 番組保存委員会、事業運営委員会、理事会を開催

9月7日に開催された今年度第2回番組保存委員会は、番組及び番組情報の収集・保存・公開など事業の重点事項、問題となった番組の収集・保存・視聴方法等を審議した。

15日開催の第2回事業運営委員会では、今井委員(NHK副会長)を副委員長に再任した。また、外部配信システムの運用、諸課題への対応について審議した。

両委員会報告は17日開催の第3回理事会で了承された。

横浜情報文化センターの賃貸料問題への対応は、横浜企業経営支援財団と番組センターのスタンスをどう調整できるのか、協議を継続する。

公益法人制度への対応については、公益財団法人への移行を前提にして、法律で求められている認定要件を満たせるのかを、事業や会計の実態を踏まえて整理、確認し、それを次回1月の事業運営委員会、理事会で検討して今年度末までに移行方針を決定することとなった。